

樹木や植物の種類によつての標高を知る

(高さが100m増すごとに気温は、0.6℃ずつ低くなる)

大きく分けると4つの帯域に分けられる

1. 低山帯(照葉樹林帯)

標高500m以下で、年間平均気温が12℃~18℃の地帯。

クスノキ・ツバキ・クロマツなどが生えている地帯



クスノキ



ツバキ



クロマツ

2. 山地帯(落葉樹林帯)

標高500mから1500mで、5月または9月の気温が10℃を超える地帯。

ブナ・ハウノ木・ミズナラ・白樺など落葉樹



ブナ



ハウノ木



ミズナラ

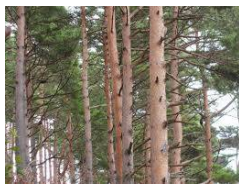


白樺

3. 亜高山帯(常緑針葉樹林帯)

標高1500mから2400mで、5月または9月の気温が10℃以下の地帯。

赤松・カラマツ・シラビソ・トウヒなど針葉樹



赤松



カラマツ



シラビソ



トウヒ

4. 高山帯(ハイマツ帯)

標高2400m以上で、高さのある木は生えない、森林限界地帯

ハイマツ・ミヤマハンノキ・高山植物など地面にはうように生息する



ハイマツ



ミヤマハンノキ

※ 日本での森林限界は、2400m以上だけど、北に行くほど標高は、下がってくる
北海道や東北地方の北部では、1500m前後になる